

令和 7 年度第 3 回長野市社会福祉審議会児童福祉専門分科会
(長野市版子ども・子育て会議)
会議要旨

- 開催日時 令和 7 年 7 月 30 日(水) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 00 分まで
- 開催場所 第一庁舎 7 階 第一・第二委員会室
- 出席委員 水口委員、田中(亜)委員、渡邊委員、和田委員、北村委員、宮本委員、倉島委員、日台委員、阿出川委員、中村委員、松田委員、山崎委員、石垣委員
- 欠席委員 塚原委員、塚田委員、宮下委員、田中(宗)委員
- 事務局出席者 島田こども未来部長、丸山こども政策課長、中村子育て家庭福祉課長、宮下保育・幼稚園課長、石坂こども総合支援センター所長ほか

発言者	内容
	1 開会
会長	2 挨拶
まいさぼ長野市健康課	3 議事 (1) 長野市の若者を支援する取組について 資料 1－1 資料 1－2 に基づき説明 《質疑応答》
委員	若年層の相談の傾向として、仕事がない、続かないというものがあったが、そもそも求人がないという意味なのか、本人に適する仕事がないという意味なのか。
まいさぼ長野市	求人を出すとすぐ採用となるケースもある。続かない人は人間関係や能力的に比較したときになかなか追いつかなく、上司から何をやっているんだというようなことを言われて辞めてしまう人もいる。また、1 日単位はできるが、長期の仕事に対して応募に至らないこともある。
委員	社会全体がひきこもりへの理解がないことが課題。社会の目を気にして、家族が本人の気持ちに寄り添えないというケースもある。ひきこもり当事者への支援だけでなく、家族に対する勉強会などの実施も必要ではないかと考える。
委員	支援が必要になったあとではなく、未然に防ぐためにどうすればいいのかが分かたらよい。また、ひきこもり等の状態になってしまったときに、親としてどう対応すればいいのか、事前に知っておくだけでも意味があると感じる。

発言者	内容
	<p>(2) 若者支援に関するアンケート調査結果について</p> <p>事務局 資料 2－1、資料 2－2、資料 2－3 に基づき説明</p> <p>《質疑応答》</p> <p>委員 ひきこもりとされる人について、ウェブと郵送とで、回答内容を判別できるのか。回答方法の違いから、何か見えてくるものがあるかもしれない。</p> <p>委員 自由記載欄からは、学校外での学びの場の整備を希望しているなど、意欲的な声も聞け、想像以上にポジティブな意見もあった。一方で、困難を抱えている若者について、もっと具体的な状況を引き出せるとなおい。ひきこもりへの支援を市が取り組むことには意味がある。引き続き検討していただきたい。</p> <p>委員 アンケートに答える若者は、意欲的と考えられるのではないかと。自由記載欄からは、社会や行政に希望を持っている若者の声を聞くことができた。一方で、ひきこもりの状態になってしまった人への支援は非常に難しいと感じる。ひきこもりまでいかないけれど、その一歩手前で困難や生きづらさを抱えている若者への支援を充実させ、そういった若者が社会に出ていくことで、ひきこもり状態にある人にも良い影響を与えることもあるのでは。若者たちが、自分たちの手で同世代の人たちを引き上げていけたらよい。</p> <p>委員 ライフプランについて学んだ機会のある人のほうが将来の希望が高いという結果から、ライフプラン教育や学びの場をなるべく早期に提供できたらいいと考えるが、行政として取り組むことは可能なのか。</p> <p>事務局 現在、ライフプランセミナーの開催など各課で取組はしている。今回のアンケートでは、早期に取り組むことに意味があるという結果も出ているため、今後の課題として捉えていきたい。</p>
	<p>(3) 長野市の若者に関する計画について</p> <p>事務局 資料 3－1、資料 3－2 に基づき説明</p> <p>《質疑応答》</p> <p>委員 若者の中でも、父子・母子家庭についてもう少し調査が必要ではないか。</p> <p>事務局 今回のアンケート結果をクロスさせることで分かるものがあるか、調査し検討してみたい。</p> <p>委員 結婚を希望する若者が 6 割以上いる。市で行っている結婚支援イベントでの</p>

発言者	内容
委員	<p>成婚率等は把握しているのか。</p> <p>出会いの場としてイベントを開催しているが、参加率が低い。前年度は2回開催予定だったが、そのうち1回は参加者が少なく中止となっている。行政が実施するイベントは行きづらい、また狭い範囲で行うと、知り合いがいる等で参加したくないといった声もあるので範囲を広くして実施したいと考えている。また、県のマッチングシステム「ai MATCH」の登録者における成婚率は把握できている。</p>
委員	<p>長野市では、生きづらさを抱えている若者が集い、自身の体験談を冊子にする取組などを行っている団体も出てきている。不登校やひきこもりへの理解を広めるための勉強会など、足並みをそろえて何か取組ができれば良いと思う。</p>
事務局	<p>各小・中学校の図書館に、冊子を置いていただくよう声掛けするなど、連携を図っている。今後も引き続き連携しながら取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>若者に関する計画の範囲について、子ども・子育て支援事業計画や子どもの貧困対策計画と重複する部分も出てくると思うが、どのように取り扱っていくのか。</p>
事務局	<p>若者に特化した課題・施策を整理していく予定である。</p>
委員	<p>教育現場では、キャリア・パスポートという取組を実践しているが、これは子どもたちが今の生活をどのように楽しんで生きていくかを整理する目的で行っている取組で、結婚や就職を見据えてはおらず、ライフデザイン教育とは異なるものとなっている。</p> <p>また、SaSaLANDに登録している子どもたちのその後（15歳以降）について検討していく必要がある。SaSaLANDの最大の目的は「所属感」で、それがあるとないとは、その後の人生設計が変わってくると感じている。</p> <p>また、行政発信ではなく、若者がやりたいことを後押しするような形や若者が持っている考えやエネルギーを引き出すような仕組みがよいのではないかと。また、それを行う際は、大きなコミュニティではなく、地域単位のような小さなコミュニティであることもポイントであると感じる。若者の意見表明の機会を行政がサポートするような仕組みがあったらよい。</p>
委員	<p>行政が主導してつくっていくことも大事だが、主体となる若者が受け身ではいけない。若者が主体となることで、地域での自身の役割を感じることができるよう、行政が支援する仕組みがよい。</p>
事務局	<p>若者の居場所や意見表明については、年齢が上がるにつれて、行政としての取組の仕方などが非常に難しいと感じている。引き続き皆様の意見を参考にさせていただきたい。</p>

発言者	内容
事務局	(4) 長野市子どもの貧困対策計画について 資料4、資料5に基づき説明
	4 その他
	5 閉会